



飯田市立病院ニュース

編集・発行／飯田市立病院 〒395-8502 長野県飯田市八幡町438番地
TEL●飯田(0265)21-1255(代) FAX●飯田(0265)21-1266 http://www.imh.iida.nagano.jp/

年頭所感

全人的医療の推進を
目指して

飯田市立病院長
宮川 信



新年明けましておめでとう
ございます。平成十四年
として新たな年を迎えるに
あたり、一言ご挨拶申し上
げます。

昨年を振り返ってみます
と、アメリカで起こった同
時多発テロ事件や出口の見
えない不況、国の危機的財
政状況等、何かと暗い感じ
が否めない一年であったと
感じております。

医療環境を取り巻く状況
も厳しく、経済情勢の不透
明な中、「医療制度改革」
が論議され、診療報酬の引
き下げや政府管掌健保の保
険料引き上げや老人保険制
度の対象年齢の引き上げな

どが具体的に動き出そうと
しています。このことは、
医療機関はもとより医療サ
ービスを受ける患者さんに
とつても見過ごすことので
きない大きな事柄ですが、
当院においては、いかなる
状況下でも安定した医療サ
ービスの提供を第一に考え
てまいりたいと思っていま
す。

このように変化する医療
情勢の中ではありますが、
飯田市立病院も昭和二十六
年の開設以来、昨年末で五
十周年の節目となり、本年
中には移転新築十周年を迎
える事となります。これも
ひとえに関係する皆様方の
当院に対するご理解の賜物
と感謝申し上げます。

ここで、新春にあたり、
昨年来の思いの中から印象
に残る三つを取り上げて、
本年の取り組みべき方向と
して述べてみたいと思いま
す。

まず一つとして、昨年十
月に開催された「第四十回
全国自治体病院学会」につ
いてですが、栄誉ある四十
回の学会長として、全国千

八会員病院から四千名を超
える参加者を迎え、数多く
の演題発表や特別講演、シ
ンポジウム等により、これ
からの自治体病院のあるべ
き姿について論議すること
ができうれしく思っており
ます。この学会発表では、
医療分野の質の向上に確か
な手応えを感じております
が、本年においてはこの研
究成果が医療現場で生かさ
れるような環境づくりを、
特に進めたいと考えており
ます。

第二点目としては、地域
医療連携業務への取り組み
です。これについては昨年
四月より実施いたし、飯田・
下伊那の医療機関との本格
的連携業務を進めてまいり
ました。病院の機能分担を
キーワードに飯田市立病院
が中核病院としての機能を
充分に発揮しながら、患者
さんに対しては一貫性と連
続性のある医療の確保を目
指します。

実施の二年目にあたる本
年が成否のかぎを握るもの
との認識のもとに、「かか
りつけ医」の推進にあわせ

更なる病診連携を進めてま
いります。

第三点目として、時代に
即応した各種事業や制度の
導入についてですが、医療
を取り巻く情勢が厳しくな
る中で、今まで以上にすば
やい展開をいたしたいと考
えております。

医療分野での先進的整備
等をタイムリーに手がける
ことに合わせ、現場での意
識改革をも進めながら、理
想像としての「全人的医療
の推進」を飯田市立病院か
ら発信し、「医学、医療、
技術、人権など調和のとれ
た良質な医療づくり」に一
歩でも近づけるよう努力い
たします。

その他多くの事業につい
て山積する課題はありますが、
知恵と努力により公立
病院としての使命を果たし
たいと考えております。



飯田市立病院は四月より「院外処方せん」になります

外来お薬の院外処方せん発行にご理解とご協力をお願いします

院外処方せんが現在のよう
に定着するきっかけにな
ったのは、昭和四十九年
に行われた診療報酬改正に
おいて、それまでの処方せん
発効料十点が五十点に引き
上げられたからです。これ
を機に厚生省（現厚生労働
省）の考えが浸透し、今日
の状況になりました。ここ
に課せられた命題は二つあ
りました。第一は、医薬品
の適正使用への貢献です。
医学・薬学の進歩によって
優れた医薬品が開発され、
医療は日進月歩で進んでい
ますが、その一方で薬理作
用の強い医薬品の登場によ
って、副作用等安全性につ
いて様々な問題が起こって
います。医薬品の開発過程
での安全性の確認はもとよ
り重要なことですが、適正
に使用されてこそ初めて有

効性も安全性も確保されま
す。

第二は、医療保険におけ
る医薬品費の合理化、節減
への貢献です。例えば同じ
患者さんが複数の医療機関
で処方せんをもらった場合、
同じ医薬品が重複して処方
されることは少なくありま
せん。このような場合、「か
かりつけ薬局」を利用する
ことにより、重複投薬をチ
ェックすることが可能にな
り、安全性の確保とともに
不必要な薬剤の使用を避け
ることも可能になります。
医薬品の適正使用への貢献
は、即、医薬品費用の合理
化、節減になることでもあ
るといえます。

加えて三番目の貢献とし
て、外来患者さんの薬は地
域の保険調剤薬局が担い、
病院薬剤師は入院患者さん
の薬に関するあらゆる仕事
を担当するという分担制が
大切な考え方として定着し
つつあり、この実践が院外
処方せん発行なのです。
飯田市立病院では平成十
四年四月から全面的に院外
処方せん化することが決定

されました。当院が目指
す院外処方せん発行は、
上述した点の実現にあり
ます。

更なる医薬品使用時の
安全性を高めることがよ
り良い健康確保の大切な
手段になる点をご理解頂
きたいと思えます。

反面、処方せんを受け
取り調剤薬局に行かなけ
ればならない二度手間や、
「コーヒー一杯」くらい
の余分な費用が必要にな
るなど不便なこともあり
ます。こうした点につい
ては充分ご理解いただけ
る努力をしたいと考えて
います。地域に長く安定
した制度として根付いて
頂けるように、患者さん
をはじめ関係する皆様方
のご理解とご協力をお願
いたします。

【薬剤科】



飯田市立病院が創立 五十周年を迎えます

飯田市立病院も昭和二十
六年十二月の診療開始以来
五十周年の節目を迎えまし
た。また、本年は移転新築
十周年を迎えることから、
高松分院とともに記念事業
を予定いたしております。

飯田市立病院のあゆみ

昭和二十六年三月十二日

開設許可

昭和二十六年十二月三日

診療開始

新病院

平成二年七月四日

開設許可

平成四年十月二十五日

診療開始

飯田市立病院・高松分院
五十周年記念事業の概略

日時	場所	内容
三月二日(土)午後	県公民館 他	記念式典
		記念講演
		病院施設公開
		院内展示他 予定

在宅ケアセンターが 新築移転しました

市立病院の救急室の拡張
改修関連工事により在宅ケ
アセンターが北側駐車場内
に新築移転いたしました。

工事期間中利用者の皆様
方に多くの不便をおかけし
ましたが、新しい建物では
総合ケアセンターとしての
機能を更に高めました。

今後とも地域に密着した
介護・医療や福祉の相談窓
口としてお気軽にご利用く
ださい。

